

徳島子どもと教育



子どもの名前で自衛官を募集するのはやめて！ －自衛官募集ポスターコンクールの中止を要請－

「徳島県教職員の会」「徳島県退職教職員連絡協議会」「ゆきとどいた教育をめざす徳島県連絡会」の教育3団体の会員10名は、5月11日、徳島県危機管理環境部とくしまゼロ作戦課に対し、子どもを使って自衛官を募集する「徳島県自衛官募集啓発ポスターコンクール」の中止を求める要請書を提出し、コンクールの中止を要請しました（この場で使用した「要求書」「ポスターコンクール募集要領〈令和元年版〉」、「コンクール反対の要望に対する県の文書回答〈2019.10.21〉」を同封していますので、ご参照ください）。



要請書を手渡す代表者（左）

担当部局の変更理由は？他の都道府県では？

参加者は、「昨年度まで地方創生局市町村課がポスターコンクールを担当していたが、なぜ今年度から危機管理部とくしまゼロ作戦課が担当するようになったのか」「他の都道府県でポスターコンクールをやっているのか」などと問いました。これに対し県は、「なぜ、（私たちが）担当するようになったのかは、まだ、聞いていない」「他県でやっているか確認していない」と回答しました。

子どもの名前での募集は中止すべきでは？

参加者は、「子どもの名前を使い、教育の場を利用して隊員募集の広報活動をするのは中止すべきだ」と求めました。県は、「夏休み中のコンクールで、強制でなく任意である」と回答しました。これに対し会員は、「子どもの発達過程、子どもの現状を無視したもので、子供の権利条約に反する異常なコンクールだ」「職業について考えることは大切だ。しかし、自分の進路さえ決まっていない子どもの名前で、自衛官という特定の仕事につくことを他人に呼びかけるなどということはあってはならない」「ポスターを募集をしたいのなら、学校や子どもを使うのではなく、一般公募でやればよい」などと問題点を厳しく指摘しました。

今年度は実施するのか？

今年度のポスターコンクールについて県側は、「今まで自衛隊と相談してやっていたが、新型コロナウイルスの問題もあって、今年度については相談できていない。コンクールの実施について、現時点では決まっていない」などと述べました。

91歳になる元教師が、体験から中止を求める

要請に参加した91歳の元教師は、次のように述べ、コンクールの中止を求めました。

戦後75年、平和憲法のおかげで、戦死者を出さずに平和に過ごすことができた。私は海軍に16歳で志願、愛国心に満ち溢れていた。戦争が長引いていたら特攻隊で敵艦に突っ込んでいたかもしれない。戦争は、自然災害のように突然にはやって来ない。戦争への道を歩んでいるのではと認識すれば、その芽を摘むことが大切だ。軍国主義教育が再びやってくるのではと心配している。子どもを使っての自衛官募集は中止すべきだ。



学校再開、これから必要なこと

新型コロナ問題で、退職会員から投稿がありました。その一部を紹介させていただきます。

新型コロナウイルス問題で、長く休校していた学校が再開されました。こうしたなか、次のようなことが、必要ではないでしょうか。

- ① 感染防止対策として、30人を超える過密な学級では二つの教室に分けて授業ができるように教員を加配する必要があります。政府などは、責任ある対応をすべきです。
- ② 今後の2波・3波に向けて、しっかりと準備していく必要があると思われます。（マスク・消毒液・手袋・非接触体温計、保健室とは別に対応できる部屋の確保等）
- ③ 夏休み授業・土曜授業等が検討されていますが、子どもたちの心身を考えると、授業日は必要最低限とすることが望まれます。
- ④ 文科省は、学習指導要領を臨時に見直し、小学校外国語科実施の延期、道徳など履修時数の大幅減などを進め、基礎基本の教科を重点とした編成とし、また、子どもの成長に大切な教育活動を保障する必要があると考えます。
- ⑤ 今後に備え、ネット環境の整備など、学習環境の支援を進める必要があります。
- ⑥ 高校・大学入試にあたって、学校で未履修の単元は入試問題に含めないように、文科省や県教育委員会等は方向を示すべきだと思います。
- ⑦ 国や県は、「1年単位の変形労働時間制」導入の条例制定の動きを中断すべきです。

教職員の会は、新型コロナ問題に関わり、近日中に、県教委に要請書を提出する予定です。

米ちゃんの楽しい授業④

学んだことを「総合」して現実問題を解決する

米田恵子（公立小学校教諭・数学教育協議会四国地区委員長）

AINSHUTAINは「学校で学んだことを忘れてしまった時に、なお残っているもの。それこそ教育だ」と言いました。遠山啓も「学校を卒業して長い時間が経過しても記憶に残るのは、雑多な知識ではなく、…一般的な統一原理である」、その為に内容を削減し、ごく少数の重要な知識をゆっくり時間をかけて教えることが大切だと書いています。

教室の子どもたちは、十年後に学んだことの何を覚えているでしょうか？十年、二十年後の成長した姿を思い浮かべて、毎日の教材研究をしていますか？多忙化が進み、全国学テが悉皆で実施されるようになり、目の前のことこなすのに精一杯で、職員室で教育の夢や希望を語ることが少なくなってきたと感じています。京大の松沢教授は講演で「99%以上DNAがヒトと同じであるチンパンジーと記憶力勝負をすると、人は瞬時に負ける。人が持つ能力でチンパンジーが持っていないもの、それは、未来を想像する力だ」と言いました。事故で手足をなくしたチンパンジーは、今が楽しかったら幸せ、自分の将来を思ってくよくよすることはないそうです。また、思想家・内田樹氏は、2500年ほど昔の春秋戦国時代に、時間意識が未熟な人を諭すために「朝三暮四」「守株待兔」等の故事が生まれたと書いています。『長期的に見れば、正直が引き合う』のに、『短期的に見て、嘘が引き合う』現代のアメリカや日本のことをサル化した社会だと言います。短いスパンでしか考えず「今さえよければ、自分さえよければ、それでいい」と生きる現代人は、論理的な思考力も衰えてきていると言っています。

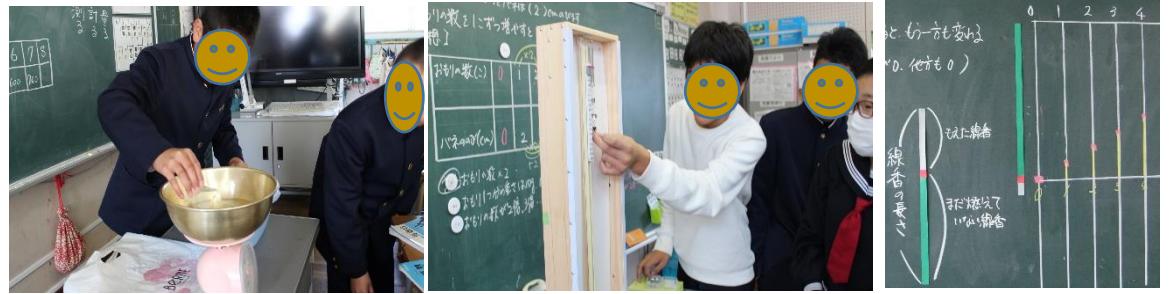
右図は昨年の全国学力調査の結果を棒グラフに表したもので、メモリ幅を0～100（上）にするとほぼ差がないので、小4の算数教科書にある「差を際立たせる」方法で、メモリ幅を61～70にすると下のグラフになります。本当は差がないのに、下グラフのイメージで点数競争に追い立てられたらではありません。教室では、読書冊数、外遊びの回数、家庭学習時間、万歩計の歩数、給食残食量など、いろいろ調べて集計させられていませんか？子どもを要素で分析せず、まるごと一人の人間として認めたいものです。将来、データを「総合」して世の中を眺める眼を持つ大人に育てるため、授業の中で学んだことを使って、自分で考え、問題を解決するような活動を取り入れたいものです。



6年「比例で未来を予想する ~21秒後予想ゲーム~」

詳しくは書きませんが、比例の学習では、ボウルに水を1dLずつ入れて体積と重さの関係を調べたり、バネにおもりをつるして個数と伸びの関係を調べたりする活動をして、

①倍々の法則、②変化量一定 ($x=0, y=0$)、③商一定、④比例の式、等の性質を見つけて後、線香の燃えた時間と長さを測ってグラフを描き、その後、比例の問題を解きます。最後に比例を使った発展的な学習を取り入れています。数えずに釘の数を当てたり、秤だけで針金の長さを求めたり、1mさしを使って校舎の高さを求めたり、電車が走る距離を予想したり、…比例を使うと未知の問題を解決することができます。



中でも、毎年好評だったのが「21秒後予想ゲーム」です。各班に「プラレール4本、電車、1mさし、ストップウォッチ、電卓」を渡して、それぞれの電車が21秒で何cm走るか予想させます。翌日、教室に長くレールを引き、走らせて確かめます。話し合いをして、データの取り方が決まった班から実験開始です。時間制限はなく、途中の方法変更も自由です。計算ができた班は画用紙に方法と予想値を書きます。比例の学習は終わっているので、①秒速を計算し、秒速×21秒をする、②3秒間に走る長さを測り7倍する、③1秒間に走る長さを測り21倍する、④比例式で解く、と4つの方法が出ました。実測すると、予想と2cm(0.3%)しか誤差がない班の優勝でした。授業後「予想の方法は、7つの班だけでも4種類あるので、他のクラスもしたら、もっと種類があるのかなあと思った。また、誤差2cmだったのでびっくりした。比例を使うと本当に未来の予想ができるので、便利だなあと思った。将来役立つし、これから使えると思った」「未来を読めるのはアニメとかだけと思っていたのでびっくりした。エンジンなどの消費が多いものなどの予想をしてみたい。途中で速さが変わるものなどはどうするか気になった」などを感想に書いていました。今後、一次関数や二次関数を学んだ時、社会や環境の量を計算し考察できる人になって欲しいと思います。

次回のテーマは、「楽しく、安心できて、自信が持てるのがいい学校」です。